

展示「日露戦争と滋賀県民」

平成 21 年 2 月 13 日～3 月 10 日



「甲賀郡貴生川村応召人員表」

召集令状を受けた年月日・時間、召集区分、兵士数などが詳細に記される。召集 23 回で 39 人が応召した。貴生川村は 4 大字から成り、当時の人口は 1600 人ほど。「甲賀郡貴生川村戦時事績」所収。

「戦時事績」については末尾参照



「軍用夏襦袢・袴下検査の復命書」

明治 38 年 (1905 年)

大津・彦根両高等女学校は、県に依頼され、陸軍被服廠^{ひふくしょう}へ納入する軍用夏襦袢・袴下(両校合わせて 5 千組、計 1 万枚)の縫製を引き受けていた。契約が 37 年 12 月、納入期限は 38 年 3 月末だったが、検査は 4 月にずれこんでいる。

「軍用米郡市別及輸送停車場別 俵数一覧表」

明治 37 年 (1904 年)

明治 37 年 11 月下旬、滋賀県は他の 6 県とともに陸軍省から玄米各 4 万石 (約 10 万俵) の委託購買を依頼された。その後 1 万石が追加されたが、12 月末の完納をめざし、兵庫に向けて鉄道輸送した。一覧表には供給する郡市が横、停車場名が縦に書かれている。数字は俵数での表記。朱筆は追加分。

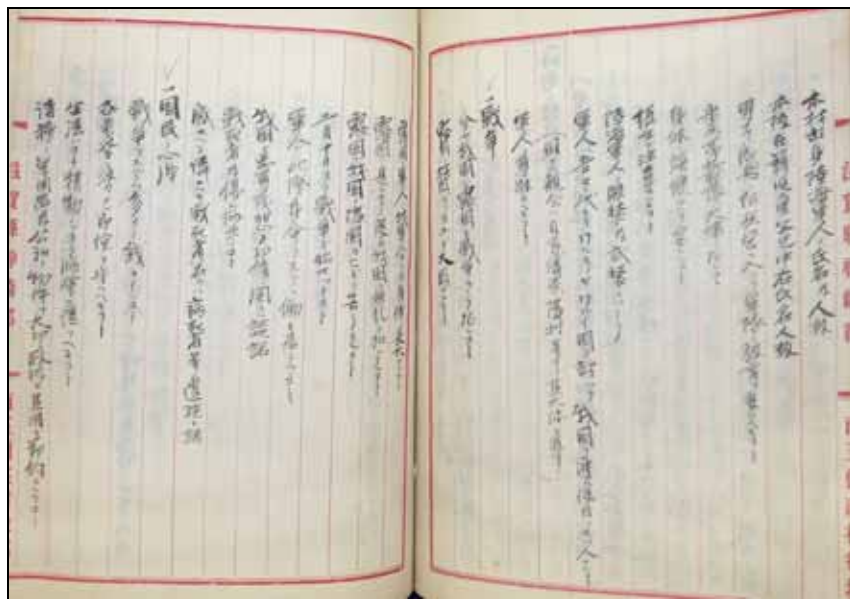


「常盤村戦時国民貯蓄組合規則」に見える儉約項目 明治 37 年 (1904 年) 莫大な戦費をまかなうため、国民には非常特別税の負担や多額の国債購入が求められた。これに応じるため各市町村では貯蓄組合を組織したり、節儉規約を定めたりしている。「栗太郡常盤村戦時事績」所収。



「時局発生以来の労働者需用供給の状況、賃金の高低など調査書」

明治 38 年（1905 年）
 県内務部作成。日露戦争勃発以来、製造業縮小・国民の節儉により、大工などの職人や木綿縮^{ちぢみ}などの職工の仕事がなくなったり賃金が大幅に下がったりしたと述べられている。『時局ニ関スル影響調査書』所収。



神崎郡南五個荘村の小学校における「戦時教材要目」

南五個荘村の小学校で週 1 回、修身の時間に教授された、学年ごとの要目。展示部分は 1 年生のもの。ロシアが日本よりよほど大国であること、戦争には多額の金銭が必要であること、などが見える。「神崎郡南五個荘村戦時事績」所収。



出征兵士・遺家族慰問用の絵葉書（複製）

ちくぶ
竹生 尋常高等小学校児童の作画。「東浅井郡竹生村戦時事績」所収。



「蒲生郡金田村戦時事績」所収の写真（複製）

八幡停車場前の凱旋門：凱旋兵士を歓迎するために、
蒲生郡西部の1町12か村連合で建設したもの。

ほかに、「蒲生郡金田村戦時事績」所収の写真（複製）2枚

- ・軍馬用秣まぐさの徴集風景
- ・戦死者の葬儀風景



「日露戦争戦利品配与につき寺院数調査依頼」

明治 39 年（1906 年）

現在でも、各地の神社などに日露戦争の戦利品（砲弾や武器類）が残されているのを見ることがある。この文書は陸軍省が戦利品を配与するための寺院数調査を、内務省から県に命じたもの。

「戦時事績（事蹟）」とは

明治 39 年（1906 年）10 月 6 日の県訓令により、事変に処する規範を後世に残し、常時の人心作興・事業経営に資するものとして、各市町村に編纂が命じられた。「時局ニ於ケル恤兵・犒軍・救護・其他記念事業ノ経営、青年団体ノ活動及戦後ニ処スヘキ経営等、各種事績」が記される。多くは明治 40 年初頭に提出されている。

・「犒軍」は兵士や軍をねぎらうこと